

合併号 [2009年7月6日 月曜日]



歩歩歩（ふふふ）の歩（ふ）
 緩歩で観歩
 歩歩歩（ほほほ）の歩（ほ）
 歩歩笑美（ほほえみ）伊豆歩は
 歓歩で完歩

第78回 伊豆歩倶楽部 8月例会**蓮台寺温泉と千人風呂ウォーク 11Km**

下田のシンボルである下田富士に登り、古くから下田の奥座敷といわれている下田情緒ただよ
 蓮台寺温泉を散策した後、日本一の総檜大浴場『千人風呂』で一日の疲れを癒す。
 ゴール後、懇親会を行います。

【日時】 2009年8月23日(日) 10時

【集合場所】 ベイステージ下田(2Fデッキ) 遠方参加者 伊豆急下田駅 12時30分

【入浴料】 1000円

【コース】 ベイステージ下田 下田富士 伊豆急下田 立野
 蓮台寺温泉(湯の華小路 天神神社) お吉ヶ淵
 金谷旅館(千人風呂) 14時30分予定
 名札を必ず着けて下さい。

【暑気払い】 とん亭 16時 会費: 男性5000円・女性4000円

楽しい福引を行います。家で眠っている品、使われていない品がありましたら
 当日持参して下さい。『暑気払い』のみ参加者も大歓迎!!

【問い合わせ】 伊豆歩倶楽部事務局(笹本) TEL/FAX:0558-22-5465 携帯090-2140-1717

第79回 伊豆歩倶楽部 9月例会**身延山とぶどう狩りウォーキング 10Km**

そびえ立つ杉の古木、樹齢数百年を越える桜の銘木と豊かな自然に包まれた身延山を探索して、
 新鮮でおいしいぶどう狩りを楽しみませんか。

【日程】 2009年9月13日(日)

【会費】 会員 8500円 一般 9000円

但し、参加者人数により多少の変更が有ります。会費には、食事代(昼食・おにぎり/
 夕食・弁当)ロープウェイ往復代、ぶどう園入園料を含みます。

【募集人員】 40名

【予定コース】 湯の花観光交流会(5:00) 伊豆急下田駅(5:20) 伊東駅(7:10)
 大仁道の駅(7:45) 富士IC(8:45) 身延山(10:20)[総門 三門
 菩提梯 身延山久遠寺 ロープウェイ 奥之院思親閣 身延山山頂(1153m)
 ロープウェイ 総門](12:45) (13:30)アルプス清香園(ぶどう狩り)(15:15)
 白根IC 朝霧高原道の駅 沼津IC 大仁道の駅
 伊東駅(18:40) 伊豆急下田駅(20:30) 湯の花観光交流館(20:45)

【申込方法】 参加希望者はFAX、もしくはハガキにて申し込み下さい。

FAX: 0558-22-5465

〒415-0038 下田市大賀茂301 笹本祀長 あて

【締め切り】 2009年8月10日(月)

尚、参加者には追って詳細を送付いたします。(8月20日以降予定)

例会報告**第76回 伊豆歩倶楽部 6月例会****「河津」鉢の山森林セラピーロードウォーク 第13回全国一斉アルコロジ大会**

2009年6月21日(日) 雨

・参加者: 23名(会員20名・一般3名)

雨の降る中、全員完全武装で鉢の山(標高619m)に向かって出発する(9:45)。途中小休止をして
 第一駐車場でトイレ休憩をする。セラピーロード「桜の小道」「森の小道」と雨の降りしきる中を進む。
 階段が多く大変である。山麓周遊路を登って12時山頂広場に到着する。天気良ければ天城連山や伊豆七島
 が一望出来る絶景であるが雨と霧で視界はゼロである。昼食を食べて山頂周遊路を廻って下山する(12:45)。
 三島神社、上佐ヶ野親水公園を廻って、14時40分雨の中全員無事ゴールする。

事務局便り

第77回伊豆歩俱樂部7月例会「上高地・乗鞍高原」ウォーク(2泊3日)は多くの参加者を得、予定通り実施されました。
会報「Walking」は7月号・8月号は合併号となります。
9月より通常通りになります。

伊豆歩俱樂部新規会員募集中!

伊豆歩俱樂部入会ご希望の方は、お気軽に事務局(0558-22-5465:笹本)までお問合せ下さい。

【会費】新規会員 3,000円(入会金1,000円 年会費2,000円/年)

家族会員 1,000円/年

【納入方法】郵便振替用紙にて「郵便番号 10150-57680821 伊豆歩俱樂部」宛 納入して下さい。

第2次 21世紀の朝鮮通信使 ソウル~東京 日韓友情ウォークに参加

伊豆歩俱樂部会員No.22 杉本育男

1607年に朝鮮から国書を携えて、朝鮮通信使が日本を訪れてから400年。2007年4月に、この節目を記念してソウルから東京までの2000Kmにも及ぶ21世紀の朝鮮通信使友情ウォークが実施されました。

今回も再び2009年4月1日に日韓の市民ウォーカーが心をついにソウルを出発致しました。この一行が5月12日に静岡県入りいたしました。5月17日、12時ごろ箱根芦ノ湖において、東精歩こう会から伊豆歩俱樂部が先達を引き継ぎました。

伊豆歩俱樂部からの参加者は会長を含め8名の参加でした。韓国からは正使(隊長)の宣相圭氏ほか8名を含む総勢約30名でのウォークでした。やはり嬉しかったのは、ソウルから東京まで、一行の事務局長として我が伊豆歩俱樂部の会員であります“ひげ”の遠藤清夫さん(会員No.6)が元気にウォークし、非常に強く感じました。12時ごろ箱根芦ノ湖を出発し、16時30分に小田原駅に到着いたしました。

一日中、雨の中のウォーキングでした。雨も自然と言いつつも、雨かきながらのウォーキングでした。石畳の日道は雨で滑りやすく、皆相当難儀いたしました。私も尻餅をつき、痛い思いをしました。小田原駅に到着し、ほっと一息ついたとたん、一日中雨の中のウォーキング、ハンパまでずぶ濡れの身体に寒さが襲って来ました。当然、その後の行動が決まっています。身体の内側から温めるべき、駅前の居酒屋へと直行。赤ちょうちんは、心の灯火に見えました。その後はエンドレス!

6月11・12日 伊豆七島「利島」サクユリウォーキングに参加して

伊豆歩俱樂部会員No.514 渡辺芳男

下田市須崎港で豊津会長が出発式の挨拶を始めると、前夜からの雨も上がり薄らと日が差し始めた。これから伊豆七島「利島」への一泊2日のウォーキングである。

参加者17名が遊漁船「宝栄丸」二隻にわかれての船旅である。私は女性陣6人、男性陣4人で大きな船の方に乗った。港を出て10分ぐらいは皆とおしゃべりをして堪能だった。しかし、だんだんと船が速くなり、気分が悪くなり、船底の部屋に入って横になった。はじめお干をかいていたのが冷やりに変わり、毛布をかぶった。一時間の船旅でやっと利島に着いた。地に足が着いてほっとした。同船の男性陣は皆気分が悪そうだった。それでも波は舳から民宿まで20分程歩いていううちに元気を取り戻した。民宿は男女別宿であった。

昼食後3時間ほど島の散策に出掛けた。利島は大島の南27Kmに位置し、周囲7.7Kmの海底火山が噴火してできた島である。人口は約310人。産業は橋由生産と漁業である。島は平坦なところは少なく、ほとんどが明日登る海拔508mの「宮塚山」に向かったの坂道である。ウォーキングに出でやすく目に入るのは、玉石を積んだ石畳である。海から運んだであろう一抱えもある石を大きさを揃えて積んである石畳のみごとである。石垣をメインに皆で記念写真を撮った。

「利島村小中学校」前を通った。芝生のグラウンドがきれいに手入れされていた。オレンジの軍団を見た教師が窓を開け生徒が私達に手を振った。小学生9人、中学生4人の在籍で島にとって貴重な活力源である。さすがに東京都である。広い道路が整備されている。車はほとんど軽自動車で「品川」ナンバーを付けて誇らしげに走っている。歩いている島民に会うことはなく、どこに人がいるのだろうか。

歩いて行く道路の両側はすべて榎の林である。島の80%が榎林だそうだ。榎というと伊豆大島というイメージであったが、利島で全国の橋由の6割を生産しているという。太い幹の榎の木がみごとである。約20万本植わっているという。木の下もきれいに草刈りをして、手入れをしてある。秋は榎の実の収穫をするために下草を刈って実を採りやすいようにしているのである。大変な重労働の作業であろう。

榎畑の中に「サクユリ」が咲いている。伊豆諸島に固有のユリである。ただシフレットでは白い花弁の中に赤い花が咲いているが、実際咲いている「サクユリ」には赤い花がない。そこから、これは本物である。偽物だという議論になった。島の人に確認すると、赤く咲いているのが本来の「サクユリ」で赤くないのは品種改良をした「サクユリ」であるということでした。両方とも「サクユリ」でよかった。

15時30分に民宿に帰る。男性陣はお風呂が沸くのを待たずに宴会が始まった。2回の追加で冷蔵庫で冷やしてあった14本のビールを飲み干してしまった。夕食にもビールがほしいとお願すると、持ち込みで結構ですので自分で酒屋から買って下さいと言われてしまった。今度は、ウイスキーと焼酎に代えて延々と飲み続けるのである。夕食の島すし、ハンパ、アタリがおいしかった。皆さん眠りについたようです。

2日目は「宮塚山」海拔508mの山頂を目指してのウォーキングである。頂上まですべて登り坂である。細い山道は両側から草が

生 茂っていた。一昨日の雨で道はまだ水分をいっぱい含んでいた。だんだんにみんなのおしゃべりが少なくなり、もくもくと山頂を目指して歩をすすめていく。すべて尻もちをつく人もいた。背の低い私なのに下ばかりを向いて歩いていて頭を二回も倒木にぶつかった。

キクラゲが繁っている木を見つけた時こそ雑音であった。山頂には展望台が設置されていた。最高の天気、集客や大島がきれいに見えた。無人島のウドネ島もすぐ近くにある。山下りは登りよりも大変だった。膝がガクガクしてきた。ここでも滑って尻もちをつく人がいた。無事下山して「ウスイゴウ公園」に到着。民宿の大きなおにぎりをまおぼった。

帰路の船を待つ間に漁協で大きなサザエを買って帰る人もいた。一個千円のサザエである。海は曇っている。今度船室に入らず全員が船尾の外にいた。利島を一周してお別れである。島の裏側は絶壁であった。とても人の住めるところはない。船尾は快適であった。潮風を受けて気持ちがいい。誰も酔う人はいない。時折海の上に波しぶきのできる「虹」がかかると拍手がとんだ。希望の湧いてくる「虹」であった。

二艘は須崎港が見えるあたりで並んだ。二艘仲良く入港である。2日間の楽しいウォーキングも無事終了である。感動を共有できたことがお土産である。

「私の沿岸回想録」 放浪紳士 【前号より続く】

・ポンオムゲロ イツパヒヤクエンダ(これは日本語です) 岩手県普代村から、田野岬村 北山崎に登る峠は、長くついに北山崎展望台から見る大断崖は絶えず太平洋は広く雲一つ無い。空と海とが一体となっていました。私の心身は疲労困憊していました。出店が軒を並べて各商品を売っています。ワカメ・コンブ・干魚・貝などが。これらの中に古い松の木を割ったものを小束にして売っているおばあちゃんがありました。「これどうして食べるの」と私は尋ねました。おばあちゃんは「コレクウモノデネヨ ホトケノオクレムゲサタクノサ)これ食う物ではない。仏の送り迎えに燃やすのだ。(ココデハ ポンニ コノフルマツヲ ミナタクノサ)ここでは お盆にこの古松を皆燃やすのだ。(オメサマモ エサカッテ エテポンオ ムゲロ イツパ ヒヤクエンダ)お前さんも家に買って行って、お盆を迎えなさい。一束百円だ。」

おばあちゃんと話して、お盆が近づいて来たことを思い出したのです。そろそろ帰って仏壇を掃除して、お盆を迎えようか。

「東京さすらい人」の伝言(4) 京さん

雷門から5分。神谷バーの前を今日立ち寄ることもなく直進。デンキブランも飲めません。水上バス乗場(吾妻橋)に着きます。対岸には、アサヒビールのユニークなモニュメントが目に入ります。何を表わしているのか知っていますか? 答えはウォーク終了後にしましょう。水上バスに乗ってはウォーキングになりません。乗船すれば、日の出桟橋、お台場へと行きます。隅田川の最終13橋の勝鬨橋までは大変ですので、約中間点の両国橋で対岸に渡り、吉良邸跡、回向院、両国国技館、旧安田庭園を目に焼き付けて雷門に戻ります。

余力があれば、更に桜橋まで足をのばして「言問だんご」を食べて糖분을補給すれば良いのです。浅草は1~2回の訪れで納得する所ではありません。何度足を運んでも飽きない所です。帰りには仲見世にある「舟和」に立寄り芋羊かんと「京さん」が旨いと思っている「あんころだんご」をお土産に。渋いお茶にあいます。駒形橋近くの「駒形どぜう」創業200年以上前、歴史ある店舗です。江戸の香、庶民の味、店内の雰囲気はまた良いです。下足番が下足札を渡してくれます。その木札番号がチェックまで代用してくれます。「どぜう」を食べて夏を乗り切りましょう。

アサヒビールのモニュメントの答えですが「ビールの泡」を表わしています。まだ見たことのない方は一度見てはいかがでしょうか。

今回はウォークより「駒形どぜう」「舟和」と食の方にペンが歩き過ぎました。

一句、喉もと流れていきます ビールかな

「次回 上野界限」

【 伊豆歩俳壇 巻】

〔利島〕

利島なる サクユリの酒 まぼろしに

邊津 芳次

石垣に ^こ香たつぷりの 額の花

大窪 正幸

実桜や ファッションショー 見たり居り

大窪 正幸

藪椿 落つる暮らしの ^か糧とする

先崎 初枝

桑の実を 口にする我等 甘く熟す

先崎 初枝

【 伊豆歩俳壇 貳 】

〔 6月 〕

梅雨に濡れ ウォーク楽しむ 花談義

堀崎 龍夫

紫陽花に 恵み甘露の 雨に逢う

堀崎 龍夫

【 伊豆歩俳壇 参 】

〔 鈴の山 〕

満ち足りた 登り下りの 森セラピー

先崎 初枝

梅雨けむる 景色飲み込む 鈴の山

堀崎 龍夫

【 いずほ歌留多 ^{かるた} 】

<p style="text-align: center;">六 月や</p> <p style="text-align: center;">利島めざしの 船ゆれし</p> <p style="text-align: center;">大窪 正幸</p>	<p style="text-align: center;">マ ンジュツパ</p> <p style="text-align: center;">はなたれ小僧の 淡い恋</p> <p style="text-align: center;">邊津 芳次</p>	<p style="text-align: center;">波 けたて</p> <p style="text-align: center;">歩け歩けの 島めぐり</p> <p style="text-align: center;">邊津 芳次</p>
--	---	--

<p style="text-align: center;">手 をにぎり</p> <p style="text-align: center;">ほつとするなり 須崎なり</p> <p style="text-align: center;">大窪 正幸</p>	<p style="text-align: center;">サ クユリの</p> <p style="text-align: center;">今もわからん 人ひとり</p> <p style="text-align: center;">大窪 正幸</p>	<p style="text-align: center;">青 き実に</p> <p style="text-align: center;">ジャンプはしやぎの 利島かな</p> <p style="text-align: center;">大窪 正幸</p>
---	--	--

下田市吉佐美 ペンション ゲストハウス アーヴァン

和室・洋室お好みに合わせて・・・、人数に合わせてチョイス！

夏休みのご予約好評承り中！！

吉佐美大浜駐車場すぐ目の前、海まで水着でGO！です。

「Walkingを見て」とご予約下さい。

静岡県下田市吉佐美2620 0558-23-2635

<http://www.e-urvan.com> info@e-urvan.com



海水浴シーズンの吉佐美大浜